

仕事ずかん

バイオリン職人

古川皓一バイオリン工房
(大阪府摂津市)



古川皓一さん (46)

- プロフィール
- 1975年 大阪府生まれ
- 95年 バイオリン演奏を始める
- 97年 バイオリン製作学校に入学
- 2001年 イタリアの語学学校に短期留学
- 02年 イタリアのバイオリン工房で修業
- 04年 「古川皓一バイオリン工房」をオープン

ある一日

- 8:40 工房に到着後、仕事の準備
- 9:30 仕事をしながら、バイオリン製作教室の指導
- 12:30 昼食
- 13:30 仕事をしながら、製作教室の指導
- 17:00 楽器の引き取りなど来客対応
- 18:00 仕事終了



バイオリンの表板と裏板をつなぐ碗柱を調整する古川皓一さん
大阪府摂津市で

神経使う細かな作業

子どものころから、粘土細工などモノを作ることが好きだったという古川皓一さん。二十歳のころ、バイオリンを習い始めたことをきっかけに、バイオリンの奥深さに魅了され、製作学校やイタリアで修業。2004年に念願の工房をオープンしました。

古川さんの工房では、主にバイオリンの製作、修理・調整、販売のほか、バイオリン製作教室を開いています。

一本のバイオリンを作るのにかかる期間は塗装を含め、約3か月。バイオリンのボディ（本体）部分は、バイオリンの形の土台になる内型を作ってから、1.2ミリの横板を専用のアイロンを使ってカーブを作り、ひょうたんのような形をした表板と裏板を作ります。

古川さんが一番神経を使うのは、工程数が多い表板づくりだそうです。デザインに沿って板を

切ってから、表面を削ってふくらみを作ったり、「f孔」と呼ばれるf字の穴をノコギリで切ったりと10工程以上を経なくてはなりません。

「削りすぎたり割れたりするなど失敗しやすいパーツなので、特に集中して作業しています。木目が浮かび上がり、木目の美しさを生かす工夫もしているので、技術が必要です」

一本一本個性があるバイオリン。さまざまな依頼がある修理は、職人の腕の見せ所です。「傷んだ部分を切り取って、新しい木を継ぎ足すなど、ミリの作業を自分で工夫して、考えながらやるのがパズルみたいで楽しいです」と古川さんは話します。

やりがいは、「前よりいい音が出るようになった」などのお客さんの声。「100年、200年残る名器を作りたい」と古川さんは今日もバイオリンを作り続けています。【長尾真希子】



専用のアイロンを使って、横板のカーブを作る古川さん



バイオリンのパーツ

メッセージ

子どものころ、大好きだったゲームをきっかけに、ゲーム音楽に興味を持ち、大人になってバイオリンを習い始めました。人生何がきっかけになるかわからないので、いろいろなことに興味を持ち、視野を広げておくとよいです。

この仕事につくには

国内の製作学校卒業後に、工房や楽器店に入るか、海外の製作学校や工房（イタリア、ドイツ、イギリスなど）に留学するケースが多いです。細かい作業が多いため、集中力が必要です。音楽が好きの人だとおよいです。



木目が美しい古川さんのバイオリン本人提供